

年間活動報告

マリ・クリスティーヌ
(富山大学客員教授／異文化コミュニケーター)



■ 2011 年の活動のねらい

1924 年、富山高等学校の開校記念を祝して寄付されたヘルン文庫は、間もなく 100 周年を迎えます。そのヘルン文庫について、より多くの方に知っていただくため、2011 年は啓発活動に取り組みました。具体的には公開講座やパネルディスカッション等を企画・開催し、有識者や専門家にヘルン文庫の文化的価値と意義を伝えることに努めました。その活動を以下にご報告いたします。

1. マリ・クリスティーヌと異文化の旅 ―小泉八雲をテーマにして―

1) 経緯

小泉八雲は、異文化コミュニケーションの先駆的存在です。明治という、日本が世界に向けて飛び出していった時代を生きた八雲の考えに触れることは、国際化が進展する現在の日本においても役立ちます。私たちが今の時代を生きる上での大きなヒントが得られると考え、今回、全 6 回の講座を企画・開催しました。

2) 日時・場所

平成 23 年 10 月 4 日 (火) ～ 11 月 29 日 (火) 13:30 ～ 15:00 (全 6 回)

富山大学 五福キャンパス 生涯学習教育研究センター会議室及び黒田講堂会議室

3) 定員・受講料

定員 28 名／受講料 6,300 円 (全 6 回)

4) 講座内容・講師紹介

日 時	講 座 名	講 師
10 月 4 日 (火) 10 月 5 日 (水)	・ 西洋の怪談と日本の怪談 ・ 夢幻能青柳	平川 祐弘 (比較文化史家・東京大学名誉教授)
10 月 18 日 (火)	天璋院篤姫とその時代 ―女性がみた幕末明治―	寺尾 美保 (元尚古集成館学芸員・明治大学大学院在籍)
11 月 1 日 (火)	小泉八雲と万葉集	石王丸 夏陽子 (高岡市万葉歴史館主任研究員)
11 月 22 日 (火)	ラフカディオ・ハーンと日本の仏教 の関係	村井 文夫 (富山大学人文学部教授)
11 月 29 日 (火)	・ 異文化と小泉八雲 ・ 総括	マリ・クリスティーヌ (異文化コミュニケーター・富山大学客員教授)

2. **パネルディスカッション** ヘルン文庫のお宝発見

1) 経緯

ヘルン文庫は、小泉八雲の旧蔵書と『日本：一つの解明』の手書き原稿からなり、貴重な歴史的財産となっています。このパネルディスカッションでは、私がナビゲーターを務め、有識者によるヘルン文庫の意見交換を行い、文化の多様性や新たな価値を紐解いていきました。

2) 日時・場所

平成 23 年 12 月 13 日 (火) 13:30 ~ 15:00 / 富山国際会議場 2 F 特別会議室

3) 主催

国立大学法人富山大学・地域連携推進機構生涯学習部門 (参加費無料)

4) テーマ

ヘルン文庫から文化の多様性を理解する

5) パネラー紹介

講 師	略 歴
ウィリアム・カリー 氏	元上智大学学長、上智大学名誉教授
佃一可 氏	(社)知識資源機構代表理事、(財)全税共文化財団理事、煎茶道文化協会代表理事
鈴木良雄 氏	専門図書館協議会事務局長
栗林裕子 氏	富山大学附属図書館司書

総括：2011年の活動を振り返って

2011年はたくさんの方が起こった1年でした。特に3月11日の東日本大震災は、忘れてはならない悲しい記憶として刻まれるでしょう。その一方で、国内はもちろん、海外からもたくさんの支援が被災地へ寄せられました。国や文化の違いを超え、多くの方が手を取り支え合う姿勢に、あらためて異文化コミュニケーションの大切さを確認しました。それだけに、100余年前、日本でその異文化コミュニケーションを実践してきた小泉八雲の考えや生き方を知ることは、意義があることだと長年考えてきました。2012年はこれまでの啓発活動をより充実させ、ヘルン文庫を通じて文化の多様性を広く皆さんに知っていただき、また、学部内でヘルン研究会を立ち上げ、昨年申し上げた、国内外でのヘルン研究されている方々と連携をもちながら富山大学をヘルンの情報の宝庫として形づけていきたいと思えます。そしてアメリカのニューオーリンズのトゥレイン大学やイリノイ州のシカゴ大学等にヘルン文庫があるので富山大学のヘルン文庫との輪を世界中に広げていきたいと思えます。